

授業科目名： 日本史概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林 克 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 日本史の歴史が明らかにされた背景には古文書史料、考古資料、他の存在があることを学ぶ。日本の歴史が東アジア史と連動していることを知り、中世初期までの日本史の流れを理解する。その上で、歴史は「暗記」するものではなく、「考える」事が重要な点だと確認する。			
授業の概要 最初に、教科書に記載された日本の歴史がどのような史料の調査、研究に分かってきたのかを知る。日本の歴史の大きな流れと時代区分を理解し、原始・古代から中世初期までの日本史について学ぶ。具体的には各時代の概要を確認した上で、様々な視点からの個別的事例を取り上げ、歴史の調査・研究事例を具体的に示す。			
授業計画			
第1回：ガイダンス。授業の進め方と評価方法等の説明。日本史は古代以降、歴史書が編纂され続けてきた。近代以降、いつからどのように研究され、教科書の記述がなされているのかについて。			
第2回：日本史研究の方法。時代区分の意味と世界史研究との関係について。東アジアの歴史と日本の歴史の連動について。研究の根拠となる文献史料や考古資料、絵画資料、建築史料等について。			
第3回：原始(1)。旧石器時代 世界の人類の移動と日本列島到達。石器文化の変遷。旧石器時代の遺跡からみた人々の暮らし。			
第4回：原始(2)。縄文時代 気候変動と土器作りの開始。土器研究から分かった時期区分の意味。三内丸山遺跡にみる定住もある特徴的な縄文時代の暮らし。			
第5回：原始(3)。弥生文化の広がりや稲作。縄文時代晩期の様相と弥生時代の始まり。横浜で見つかった弥生時代の集落と墓域。			
第6回：原始(4)。弥生～古墳時代 国の成立と墳丘墓、そして古墳へ。卑弥呼と邪馬台国はどこに			
第7回：原始(5)。前方後円墳と大和朝廷。古墳時代と古墳と様々な技術の伝来について。			
第8回：古代(1)。飛鳥時代の日本と朝鮮半島、東アジア。壬申の乱と天武天皇の業績。			
第9回：古代(2)。奈良時代の政治と文化。遣隋使と遣唐使			
第10回：古代(3)。聖武天皇と光明皇后。仏教の拡大と正倉院			
第11回：古代(4)。平安時代。貴族の政治と文化。菅原道真と陰陽師。荘園と武士の発生と台頭。			
第12回：古代(5)。発掘調査からわかった奈良・平安時代における関東での人々の生活と文化			
第13回：古代(6)。平安時代末期の戦乱。平清盛と源頼朝。			
第14回：原始・古代全体の纏め。試験。			
第15回：原始・古代全体の振り返り。試験結果の分析と大切な点。			
テキスト:1冊の本に沿った講義ではなく、テキストはないが、参考書のいずれかを入手して欲しい。			
参考書・参考資料等 『大学でまなぶ日本の歴史』木村茂光ほか編著 吉川弘文館,2016 『新もういちど読む 山川日本史』五味文彦, 鳥海靖編著,山川出版社,2017			
学生に対する評価 平常点(授業中の発言、多くの回で実施する小テスト)40%、レポート(2回程度)20%、試験40%			

授業科目名： 日本史概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林 克 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 日本の歴史が明らかにされた背景には古文書史料他の存在があることを学ぶ。日本の歴史が世界史と連動していることを知り、中世から現代までの日本史の流れを理解する。その上で、歴史は「暗記」ではなく「考える」ものであることを、何回か議論することを通じ体験的に学ぶ。			
授業の概要 具体的な史料の調査、研究によって分かってきた日本の歴史の大きな流れと時代区分を理解し、中世から現代までの日本史について学ぶ。具体的には各時代の概要を確認した上で、歴史の調査・研究事例を具体的に示し、何回かは学生同士で意見を述べて議論する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス。授業の進め方と評価方法等の説明。地域史と日本史の関係性について。日本史研究の方法。時代区分の意味と世界史研究との関係について。東アジア、世界の歴史と日本の歴史の連動について。研究の根拠となる文献史料や考古資料、絵画資料、建築史料等について。			
第2回：鎌倉幕府の成立と政治体制。源頼朝と北条氏。北条泰時と承久の乱			
第3回：蒙古襲来と当時の東アジア。海底発掘で明らかになった事実と「蒙古襲来絵詞」成立の背景			
第4回：室町幕府の成立と南北朝の動乱 不屈の後醍醐天皇。日明貿易と倭寇。足利義満			
第5回：室町時代 伊勢と品川の関係と関東地方の戦国時代へ。 太田道灌の活躍			
第6回：戦国時代 織田信長の天下統一と安土城。日本とヨーロッパの出会い			
第7回：江戸時代 徳川家康とキリスト教。江戸時代初期の海外との交流			
第8回：江戸の都市インフラの整備と暮らし			
第9回：江戸と大阪。商品流通の発達。都市の生活文化の様子。			
第10回：幕末の動乱と明治維新。日清・日露戦争と東アジア情勢 台湾、朝鮮半島の領有			
第11回：第1次世界大戦から第2次世界大戦へ 関東大震災、大東京の成立から戦時体制へ。			
第12回：連合国による日本占領と朝鮮戦争。中華人民共和国の成立。			
第13回：サンフランシスコ講和から独立回復。高度成長と生活革命。その光と影。			
第14回：中世～現代のまとめ。試験。			
第15回：日本史全体の振り返りと試験結果の分析。			
テキスト:1冊の本に沿った講義ではなく、テキストはないが、参考書のいずれかを入手して欲しい。			
参考書・参考資料等 『大学でまなぶ日本の歴史』木村茂光ほか編著 吉川弘文館,2016 『新もういちど読む山川日本史』五味文彦, 鳥海靖編著,山川出版社,2017			
学生に対する評価 平常点(授業中の発言、多くの回で実施する小テスト)40%、レポート(2回程度)20%、試験40%			

授業科目名： 歴史考古学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林克 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 考古学的資料が、歴史研究にどのように活用できるのか理解する。中世・近世・近現代の歴史考古学的研究が歴史叙述に生かされていることを理解する。			
授業の概要 歴史考古学は、古代以降の歴史研究を、文献史料(古文書等)や関連資料を使って探求していく学問である。特に地域の歴史を明らかにしていく上では、考古資料は大切な根拠資料となる。最初に歴史学との関係や、考古学研究としての方法、目的、成果を説明する。その上で、様々な事例を交え、歴史考古学の現状と成果を、古代・中世を中心に学ぶ。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス。授業の進め方、評価方法の説明。考古学研究の特徴について</p> <p>第2回：考古学研究と歴史考古学研究。文献史研究との関係を説明し、地域史研究におけるその意義について。</p> <p>第3回：歴史考古学と関連諸学。民俗学、美術史、建築史等との関係を説明し物質文化研究を理解する</p> <p>第4回：具体的研究(1) 都市鎌倉の発掘調査と成果</p> <p>第5回：ヨーロッパの古典考古学と中世以降の都市考古学。</p> <p>第6回：民族考古学的な歴史考古学の危険性。E.Hエガースの研究を通じてその方法論の大切さを理解する。</p> <p>第7回：日本の古代の歴史考古学。中国大陸、朝鮮半島との関連からの年代決定と国内の文献史料の利用</p> <p>第8回：具体的研究(2) 古代都市の発掘調査と成果。大阪の古代難波の宮の発掘調査</p> <p>第9回：平安時代の歴史考古学。都市、寺院跡、集落の発掘から分かることと文献史料の関係</p> <p>第10回：仏教関連遺跡の歴史考古学</p> <p>第11回：関東の城と発掘調査の成果</p> <p>第12回：伊豆諸島の古代～中世考古学の成果</p> <p>第13回：戦国時代の城と都市の調査</p> <p>第14回：考古資料と文献史料から判明した品川と伊勢の結びつき</p> <p>第15回：歴史考古学のまとめ。定期試験</p>			
テキスト なし			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『歴史時代を掘る』坂詰秀一著 同成社2013</p>			
学生に対する評価 平常点(授業中の発言、多くの回で実施する小テスト)40%、レポート(2回程度)20%、試験40%			

授業科目名： 歴史考古学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林 克 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 考古学的資料が、歴史研究にどのように活用できるのか理解する。 中世、近世、近・現代の歴史考古学的研究が歴史叙述に生かされていることを理解する。			
授業の概要 歴史考古学中でも近年研究が進んだ近世考古学に焦点を当てて、その成果を明らかにする。近世考古学研究と近現代考古学研究について、特に出土遺物を中心に学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス。授業の進め方、評価方法の説明。考古学研究の特徴について 第2回：考古学研究と歴史考古学研究。世界の都市考古学と日本の近世考古学。近世考古学と江戸遺跡研究。その意義と成果。文献史研究との関係を説明する 第3回：江戸遺跡研究(1) 都市江戸のインフラ① 上水道と水の流れ、下水 第4回：江戸遺跡研究(2) 都市江戸のインフラ② 土地の造成と埋立て。糞尿の処理システム 第5回：江戸遺跡研究(3) 江戸の生活文化(1) 家と暮らし 第6回：江戸遺跡研究(4) 江戸の生活文化(2) 火の利用。発火具とあかり、煮炊きと暖房 第7回：近世考古学 世界と日本(1) 平戸、長崎の発掘とその成果。 第8回：近世考古学 世界と日本(2) 世界の都市遺跡の発掘とその成果 ヨーロッパとアメリカ ロンドン、アムステルダム、ニューヨーク、タイ・アユタヤ、台湾・台南ゼーランディア、澎湖島他 第9回：近世考古学 世界と日本(3) 日本における白砂糖の製造の開始と世界の白砂糖製造の比較と意義。瓦漏とその分析を確認する。 第10回：近世考古学 世界と日本(4) 茶・コーヒー・チョコレートと砂糖、カップ&ソーサー 第11回：近・現代考古学(1) 産業遺跡と考古学 第12回：近・現代考古学(2) 近・現代の物質文化研究 第13回：近世～近、現代遺跡の保存と活用 第14回：歴史考古学Ⅱのまとめ。定期試験 第15回：歴史考古学Ⅰ、Ⅱの振り返り。試験の分析			
テキスト 特定の教科書はないが、必要に応じ以下の参考文献を必ず読むこと。			
参考書・参考資料等 『図説江戸考古学研究事典』江戸遺跡研究会編 柏書房2001 『近世物質文化の考古学的研究』小林克著 六一書房2021 『考古学が語る日本の近現代』小林克他著 同成社2007			
学生に対する評価 平常点(授業中の発言、多くの回で実施する小テスト)40%、レポート(2回程度)20%、試験40%			

授業科目名： 民俗学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林克 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 日本民俗学の学史と概要を理解する。年中行事や人生の様々な儀礼、そして日常生活上の色々な事象について、民俗学的視点から見つめなおせるようになる。			
授業の概要 はじめに柳田国男を視聴して下さい。はじめとする民俗学者の研究を軸に、民俗学の学史と理論、民俗学とはどのような学問かを学ぶ。民俗学の多彩な概念を理解し、具体的調査・研究事例について理解する。日常生活上の民俗について学生が調べて発表を行い、議論や解説を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。日本民俗学とはどのような学問なのか 第2回：日本民俗学の歩み① 柳田国男の生涯と学問。柳田の研究概要を示す。 第3回：日本民俗学の歩み② 江戸時代・明治期の調査・研究と南方熊楠、今和次郎。ヨーロッパ民俗学の影響 第4回：日本民俗学の歩み③ 様々な民俗学研究。折口信夫、宮本常一の研究。渋沢敬三と民具研究の実践 第5回：民俗学の調査・研究法① 重出立証法、比較研究法、民俗地図、民具研究等について 第6回：身近な民俗学① 兆し、占い、禁忌(きんき)、呪い(まじない) 第7回：身近な民俗学② 暦と時刻 大晦日、正月、節分、七夕、盆等 第8回：身近な民俗学③ 人生儀礼 出産、結婚、葬送など 第9回：民俗学の調査・研究法② 神とアニミズム、祖先崇拜。ハレ、ケ、ケガレ。常民とサンカ 第10回：民俗学の調査・研究法④ 関連諸学との関係。歴史学、考古学、人類学、絵画史、建築史等々 第11回：学生の発表① または、民俗学の調査・研究事例①伊豆諸島の生活文化 第12回：学生の発表② または、民俗学の調査・研究事例②民具研究の実践、発火具、照明具等 第13回：学生の発表③ 第14回：授業全体のまとめ、質問受け付け、討論 定期試験 第15回：授業の振り返りと試験結果の分析			
テキスト 毎回資料プリントを配布します。			
参考書・参考資料等 その都度提示する。			
学生に対する評価 発表など授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。			

授業科目名： 外国史概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 幹彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、基礎レベルの外国史概論でグローバル・ヒストリーの世界史（外国史）の古代史、中世史、近世史、近代史、現代史を論じ、人々が三つの道で交易した異文化間の交流ネットワーク史概論である。到達目標は、時間的に数世紀単位で、空間的に地球的規模で、世界の諸地域や各人間集団の相互連関の世界史を理解させることである。			
授業の概要 基礎的な外国史概論 I。1. アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの学習法）型授業を通じて生きる力を育む。2. インターアクションで自己肯定感を高める。3. 情熱とアンケートで改善する学習者中心主義の授業。4. 知識+討論+思考=独創性開発。5. 成功哲学(信念をもち、努力すれば、勉強はできるようになる)。6. ICT(情報通信技術)使用のわかりやすい授業。			
授業計画 基礎レベルの外国史概論 I 第1回：外国史概論 I の目次の説明（古代史、中世史、近世史、近代史、現代史） 第2回：文明の成立と古代文明の特質について 第3回：中央ユーラシアと東アジア世界について 第4回：南アジア世界と東南アジア世界の展開について 第5回：西アジアと地中海周辺国家形成について 第1回小テスト 第6回：イスラーム教と西アジアの動向について 第7回：ヨーロッパ世界の変容と展開について 第8回：東アジア世界の展開と大交易・大交流の時代について 第9回：アジアの諸帝国の繁栄について 第10回：近世ヨーロッパ世界の動向について 第2回小テスト 第11回：産業革命と環大西洋革命について 第12回：イギリスの優位と欧米国民国家について 第13回：アジア諸地域の動揺と帝国主義について 第14回：第一次世界大戦と第二次世界大戦について 第15回：冷戦と今日の世界について（基礎）外国史のまとめ			
テキスト 木村靖二、岸本美緒、小松久男、橋場弦（著）、『世界史探究 詳説世界史』、山川出版、2023年。			
参考書・参考資料等 世界史小辞典編集委員会（編）、『山川世界史小辞典（改訂新版）』、山川出版社、2011年。			
学生に対する評価 期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や小テストや課題などの平常点（60%）。			

授業科目名： 外国史概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 幹彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、応用レベルの外国史概論でグローバル・ヒストリーの世界史（外国史）の古代史、中世史、近世史、近代史、現代史を論じ、人々が三つの道で交易した異文化間の交流ネットワーク史概論である。到達目標は、時間的に数世紀単位で空間的に地球的規模で世界の諸地域や各人間集団の相互連関の世界史を理解させることである。			
授業の概要 応用的な外国史概論Ⅱ。1. アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの学習法）型授業を通じて生きる力を育む。2. インターアクションで自己肯定感を高める。3 Albert Banduraの社会的学習理論の自己効力感（self-efficacy）の授業。4. 成功哲学(信念+努力=成功つまり目標達成)。5. 夢（Dreams come true. 夢が叶う）と目標を達成させる。			
授業計画 応用レベルの外国史概論Ⅱ 第1回：外国史概論Ⅱの目次の説明（東アジア史、東南アジア史、西アジア史、欧州史、米国史） 第2回：古代のユーラシアネットワークについて 第3回：唐帝国とアジアのネットワークについて 第4回：イスラーム世界のネットワークについて 第5回：アジアのネットワークについて 第6回：大モンゴル国とネットワークについて 第7回：明帝国と清帝国のネットワークについて 第8回：東南アジアとポルトガル海洋帝国と大西洋交易圏について 第9回：東南アジアとオランダ海洋帝国と大交易について 第10回：アジアとヨーロッパのネットワークについて 第11回：アジアとイギリス海洋帝国とネットワークについて 第12回：アジアとアメリカ合衆国とネットワークについて 第13回：アジア交流圏とネットワークの形成について 第14回：交流圏とネットワークの展開について 第15回：応用レベルの外国史概論Ⅱのまとめ			
テキスト 木村靖二、岸本美緒、小松久男（編）、『詳説世界史研究』、山川出版社、2019年。			
参考書・参考資料等 世界史小辞典編集委員会（編）、『山川世界史小辞典（改訂新版）』、山川出版社、2011年。			
学生に対する評価 期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や小テストや課題などの平常点（60%）			

授業科目名： アメリカ史 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：末次俊之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>太平洋戦争を経て同盟国となったアメリカは、戦後の日本に対して常に大きな影響力を持ち続けている。アメリカの政治、経済や文化、科学技術などに関する情報も、日本でもメディアを通じて身近に触れることが可能である。もちろん、アメリカは国際社会での影響力をその建国から持ち合わせていたわけではない。国としての歴史は約250年余りでありながらも、日本を含めて世界各地に大きな影響力を持つに至っている。講義を通じて、現在のアメリカへの我々の見方を、より「複眼的」に捉えられるようになることを目指す。講義の中でQ&Aも時節行う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>アメリカの歴史と文化について、北米先住民の歴史から21世紀まで、その基礎的な流れを説明していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：アメリカの歴史をアメリカ人はどのようなものと捉えているかを概略する。自己紹介。</p> <p>第2回：北米大陸先住民の世界：ヨーロッパ人入植以前の先住民の歴史・文化を学ぶ。</p> <p>第3回：植民地時代：独立までの約170年間、イギリス領植民地における「新世界」建設のプロセスを説明する。</p> <p>第4回：アメリカ独立革命：イギリス領であった北米植民地がいかなる経緯を経て独立を成功させたのか、その背景を概略する。</p> <p>第5回：「アメリカ合衆国」の建設：建国初期「共和国」をめぐる国家機構の整備において、憲法と指導者たちの思想を説明する。</p> <p>第6回：領土の拡大：19世紀半ばには太平洋までの広大な領土を持つに至った「西漸運動」の様相を理解する。</p> <p>第7回：南北戦争と「再建」：「奴隷制」をめぐる対立が未曾有の内戦を生じさせるが、その前史と「再建時代」も含めて学ぶ。</p> <p>第8回：中間テスト：前半の復習。</p> <p>第9回：金ぴか時代と「革新主義」：戦後、飛躍的な経済発展と海外進出がなされる中での、国内の混乱と社会運動を整理する。</p> <p>第10回：第一次世界大戦と1920年代：大戦後、国際政治の表舞台に立ち、空前の好景気を享受するアメリカ社会の様相を学ぶ。</p>			

第11回：ニューディールと第二次世界大戦：大恐慌による社会の混乱とローズベルト大統領、第二次大戦中のアメリカを概略する。

第12回：冷戦とアメリカ外交：第二次大戦後勃発する「冷戦」への対応とアメリカ外交の変遷を理解する。

第13回：第二次対戦後から1970年代のアメリカ社会：戦後経済繁栄を謳歌する中で、様々な展開を見せる社会運動を学ぶ。

第14回：21世紀のアメリカ：1990年代冷戦の終結をへて21世紀を迎えたアメリカの内政・外交政策を整理する。

第15回：総括

定期試験

テキスト

和田光弘編『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2014年）

参考書・参考資料等

毎回資料を配布する。

学生に対する評価

授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。

授業科目名： アメリカ史Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：末次俊之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>太平洋戦争を経て同盟国となったアメリカは、戦後の日本に対して常に大きな影響力を持ち続けている。もちろん、アメリカは国際社会での影響力をその建国から持ち合わせていたわけではない。第二次世界大戦後の冷戦期、アメリカは西側諸国のリーダーとして振る舞う中で、その中心には歴代大統領たちの存在があった。講義を通じて、現在のアメリカへの我々の見方を、より「複眼的」に捉えられるようになることを目指す。講義の中でQ&Aも時節行う。</p>			
授業の概要 1930年代から始まる「現代アメリカ」の歴史について、政治リーダーである歴代大統領たちの経歴、思想、政策、政治課題などを説明し、これを通じてアメリカの歴史や社会、文化を学ぶ。			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション：アメリカ社会のなかで「大統領」はどのような存在かを概略する。自己紹介。</p> <p>第2回：F・D・ローズベルト</p> <p>第3回：H・S・トルーマン</p> <p>第4回：D・D・アイゼンハワー</p> <p>第5回：J・F・ケネディ</p> <p>第6回：L・B・ジョンソン</p> <p>第7回：R・M・ニクソン</p> <p>第8回：中間テスト：前半の復習</p> <p>第9回：G・R・フォード、J・E・カーター</p> <p>第10回：R・W・レーガン</p> <p>第11回：G・H・W・ブッシュ</p> <p>第12回：W・J・クリントン</p> <p>第13回：G・W・ブッシュ Jr.</p> <p>第14回：B・H・オバマ</p> <p>第15回：D・J・トランプ、総括</p>			
定期試験			
テキスト 授業毎にレジュメ、資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
藤本一美編『戦後アメリカ大統領事典』（大空社、2009年）、斎藤眞、古矢旬『アメリカ政治外交史〔第二版〕』（東京大学出版会、2012年）			
学生に対する評価			
授業参加状況等（20%）小テスト・レポート等（40%）定期試験（40%）等で総合評価する。			

授業科目名： アジア史 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 幹彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、基礎レベルのアジア史でグローバル・ヒストリーのアジア史の古代史、中世史、近世史、近代史、現代史を論じ、アジアの人々が三つの道で交易した異文化間の交流ネットワーク史である。到達目標は、時間的に数世紀単位で、空間的に地球規模で、世界の諸地域や各人間集団の相互連関のアジア史を理解させることである。			
授業の概要 基礎的なアジア史 I。1. アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの学習法）型授業を通じて生きる力を育む。2. インターアクションで自己肯定感を高める。3. 情熱とアンケートで改善する学習者中心主義の授業。4. 知識+討論+思考=独創性開発。5. 成功哲学(信念をもち、努力すれば、勉強はできるようになる)。6. ICT(情報通信技術)使用のわかりやすい授業。			
授業計画 基礎レベルのアジア史 I 第1回：アジア史 I の目次の説明（古代史、中世史、近世史、近代史、現代史） 第2回：オリент世界について 第3回：西アジア世界について 第4回：アジアの古代文明について 第5回：内陸アジア世界の形成について 第1回小テスト 第6回：東アジア世界の形成について 第7回：イスラーム世界の形成について 第8回：イスラーム世界の発展について 第9回：内陸アジア世界の展開について 第10回：東アジア世界の展開について 第2回小テスト 第11回：アジア諸地域の繁栄について 第12回：アジア諸地域の動揺について 第13回：帝国主義とアジアの民族運動について 第14回：二つの世界大戦について 第15回：冷戦と第三世界について			
テキスト 木村靖二、岸本美緒、小松久男、橋場弦（著）、『世界史探究 詳説世界史』、山川出版、2023年。			
参考書・参考資料等 世界史小辞典編集委員会（編）、『山川世界史小辞典（改訂新版）』、山川出版社、2011年。			
学生に対する評価 期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や小テストや課題などの平常点（60%）。			

授業科目名： アジア史Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 幹彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、応用レベルのアジア史でグローバル・ヒストリーのアジア史の古代史、中世史、近世史、近代史、現代史を論じ、アジアの人々が三つの道で交易した異文化間の交流ネットワーク史である。到達目標は、時間的に数世紀単位で空間的に地球的規模で世界の諸地域や各人間集団の相互連関のアジア史を理解させることである。			
授業の概要 応用的なアジア史Ⅱ。1. アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの学習法）型授業を通じて生きる力を育む。2. インターアクションで自己肯定感を高める。3. Albert Banduraの社会的学習理論の自己効力感（self-efficacy）の授業。4. 成功哲学(信念+努力=成功つまり目標達成)。5. 夢（Dreams come true. 夢が叶う）と目標を達成させる。			
授業計画 応用レベルのアジア史Ⅱ 第1回：アジア史Ⅱの目次の説明（東アジア史、東南アジア史、西アジア史、南アジア史） 第2回：古代の西アジアのネットワークについて 第3回：唐帝国とアジアのネットワークについて 第4回：イスラーム世界のネットワークについて 第5回：アジアのネットワークについて 第6回：大モンゴル国とネットワークについて 第7回：明帝国のネットワークについて 第8回：清帝国のネットワークについて 第9回：東南アジアと大西洋交易圏について 第10回：東南アジアと大交易について 第11回：アジアとヨーロッパのネットワークについて 第12回：アジアとイギリス海洋帝国とネットワークについて 第13回：アジアとアメリカ合衆国とネットワークについて 第14回：アジア交流圏とネットワークの形成について 第15回：応用レベルのアジア史Ⅱのまとめ			
テキスト 木村靖二、岸本美緒、小松久男（編）、『詳説世界史研究』、山川出版社、2019年。			
参考書・参考資料等 世界史小辞典編集委員会（編）、『山川世界史小辞典（改訂新版）』、山川出版社、2011年。			
学生に対する評価 期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や小テストや課題などの平常点（60%）。			

授業科目名： 人文地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：南 春英 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 人間活動にかかわる現象の特徴とその地域差と、空間スケールでの現象の多様性と相互関係性を考察する能力を習得する。また、自然や人間の様々な活動に関する主体図、グラフ、地図などの複数の資料を収集または作成し、地理学的視点から読み解くことと、比較分析することができる。			
授業の概要 本授業では、人文地理学の観点から地表面上の現象に注目し、人文地理学の基本的な概念と地理情報の表現方法について学ぶ。また、身の回りの地域やグローバル化している現代世界の経済活動に関する地理的現象を捉え、人間活動にかかわる地域の特徴とその地域差、そしてその要因などについて理解を深める。資源・産業・生活・文化に関する現象を学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 授業内容の説明 第2回：人文地理学の主要な概念 第3回：人文地理学の視点と対象 第4回：人文地理学の研究手法① 文献の収集方法と地図と空中写真を利用した資料の収集 第5回：人文地理学の研究手法② フィールドワーク 第6回：経済地理学の基礎知識① 農業分野 第7回：経済地理学の基礎知識② 工業分野 第8回：社会地理学の基礎知識 人口現象に関する地理学 第9回：文化地理学の基礎知識 世界文化に関する地理学 第10回：現代の地域問題① 地域間格差 第11回：現代の地域問題② 地域活性化 第12回：神奈川県統計データを調べる 産業と人口関連データ 第13回：神奈川県統計データ利用して発表① 産業関連発表 第14回：神奈川県統計データ利用して発表② 人口関連発表 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト なし。必要に応じてプリントを配布します。			

参考書・参考資料等

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著（2020）『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房.

上杉和央・香川雄一・近藤章夫（2023）『みわたす・つながる人文地理学』古今書院.

奥野一生（2023）『人文・社会地域学』竹林館.

佐藤廉也・宮澤仁（2022）『人文地理学からみる世界』放送大学教育振興会.

人文地理学会編（2013）『人文地理学事典』丸善出版.

實清隆（2010）『大学テキスト 人文地理学』古今書院.

竹中克行（2015）『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房.

帝国書院編集部（2022）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院.

帝国書院（2023）『最新基本地図—世界・日本—47 訂版』帝国書院.

帝国書院編集部編（2020）『新詳資料 地理の研究』帝国書院.

野間晴雄・香川貴志・土平博・河角龍展・山田周二・小原文明（2017）『ジオ・パルNEO—
地理学・地域調査便利帖 第2版』海青社.

森正人・中川正（2022）『文化地理学ガイダンス』ナカニシヤ出版.

学生に対する評価

授業外課題（40%）、定期試験（60%）

授業科目名： 自然地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：南 春英 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 高等学校地理歴史科の学習指導要領の目標・内容を理解したうえで、自然の成り立ちと、地球環境問題・自然災害に関する自然地理学的な見方や考え方ができる。また、自然や人間の様々な活動に関する主体図、グラフ、地図などの複数の資料を収集、または作成し、地理学的視点から読み解くことと、比較分析することができる。			
授業の概要 自然地理学的要素から総合的に地域の自然環境特性や自然災害を捉える。また、日本および世界の事例を解説する。高等学校地理科目の教科書記述事項についても説明する。			
第1回：ガイダンス 授業内容の説明 第2回：自然地理学とは 自然地理学の目的と課題 第3回：地理情報と表現方法 第4回：読図① 25,000分の1地形図と地図記号 第5回：読図② 時系列地形図（今昔マップ） 第6回：地図と空中写真を利用した資料の収集 第7回：世界の地形① 地球規模の大地形 第8回：世界の地形② 河川と海岸の小地形 第9回：ハザードマップ概要 第10回：わがまちのハザードマップ調査 第11回：洪水ハザードマップと日常生活、自然災害 第12回：日本の自然環境と自然災害 第13回：アメリカの自然環境と自然災害 第14回：中国の自然環境と自然災害 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト なし。必要に応じてプリントを配布する。			
参考書・参考資料等 大山正雄・大矢雅彦（2004）『大学テキスト 自然地理学〈上巻〉』古今書院。 大山正雄・大矢雅彦（2004）『大学テキスト 自然地理学〈下巻〉』古今書院。 籠瀬良明（2012）『大学テキスト 地図読解入門』古今書院。			

季増民（2008）『中国地理概論』ナカニシヤ出版.
鈴木康弘（2019）『防災・減災につなげるハザードマップの活かし方』岩波書店.
高橋日出男・小泉武栄（2008）『自然地理学概論』朝倉書店.
帝国書院編集部（2022）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院.
帝国書院（2023）『最新基本地図—世界・日本—47訂版』帝国書院.
松原彰子著（2020）『自然地理学 第6版:地球環境の過去・現在・未来』慶応義塾大学出版会.
松山洋・川瀬久美子・辻村真貴著（2014）『自然地理学』ミネルヴァ書房.
矢ヶ崎典隆（2011）『アメリカ（世界地誌シリーズ4）』朝倉書店.
吉田英嗣著（2019）『はじめての自然地理学』古今書院.
学生に対する評価
授業外課題（40%）、定期試験（60%）

授業科目名： 地理学概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：南 春英 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 地理学に関わる歴史や基本概念について、具体例を通して地理学がいかなる学問であるかを理解し、説明できるようになることが目的とする。また、人間の生活・活動・行動が展開する空間、場所、環境に対する深い認識と説明力を習得し、地理学の見方で身近の空間を理解できるようになることが目的とする。			
授業の概要 地理学の歴史と発展を紹介し、現代地理学の知識体系及び地図、フィールドワークなどの地理学研究の基本的方法を講義する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 授業内容の説明 第2回：地理学史の概略 第3回：地理学とは① 地理学の目的と課題 第4回：地理学とは② 現代における地理学の定義、研究分野の分け方 第5回：地理学とは③ 地理学の中心概念：空間、場所、環境 第6回：現代地理学の課題と自然環境（自然地理学の諸分野） 第7回：現代地理学の課題と人文社会（人文地理学の諸分野） 第8回：地図の基本と応用：地図はなぜ必要か 第9回：地理情報と表現方法 第10回：地図の概要と地形図の読図 第11回：フィールドワーク① 地域を調査する方法 第12回：フィールドワーク② 地域調査する際の心構えと注意点 第13回：地理学の視点で地域を考える（事例解説① 原宿） 第14回：地理学の視点で地域を考える（事例解説② 白川郷） 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト なし。必要に応じてプリントを配布する。			
参考書・参考資料等 伊藤智章（2016）『地図化すると世の中が見えてくる』ベル出版。 伊藤智章（2019）『地図化すると世界の動きが見えてくる』ベル出版。 上野和彦・椿真智子・中村康子（2015）『地理学概論 第2版』朝倉書店。 高橋日出男・小泉武栄（2008）『自然地理学概論』朝倉書店。 松山洋・川瀬久美子・辻村真貴著（2014）『自然地理学』ミネルヴァ書房。			
学生に対する評価 授業外課題（40%）、定期試験（60%）			

授業科目名： 地理学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：南 春英 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指す。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指す。			
授業の概要 世界の地形、気候、資源、産業、文化など自然地理学と人文地理学の分野を説明し、地理学的な考え方をを用いて人口問題、都市問題、環境問題を考える。			
授業計画 第1回：ガイダンス 授業内容の説明 第2回：地理学とは 地理学の目的とアプローチ 第3回：地誌学と国際理解教育 アジアにおける地理教育 第4回：生活の舞台としての地形① 世界の地形、地殻変動 第5回：生活の舞台としての地形② 日本の地形の特徴と人間生活 第6回：世界の気候① 気候と気象、気候要素、ケッペンの気候区分 第7回：世界の気候② 気候変化と地球温暖化、日本の気候の特徴と人間生活 第8回：世界の資源と産業① 世界の農牧業、日本の農業 第9回：世界の資源と産業② 世界の鉱産資源、工業の発達過程 第10回：世界の都市・居住問題 第11回：世界の人口・食糧問題 第12回：世界の環境問題 第13回：受講者による発表① 身近な地域を調べよう 第14回：受講者による発表② 身近な地域を調べよう 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト なし。必要に応じてプリントを配布します。			
参考書・参考資料等 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著（2020）『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房。 實清隆（2010）『大学テキスト 人文地理学』古今書院。 人文地理学会編（2013）『人文地理学事典』丸善出版。 竹中克行（2015）『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房。 帝国書院編集部編（2020）『新詳資料 地理の研究』帝国書院。 帝国書院編集部（2022）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院。 帝国書院（2023）『最新基本地図—世界・日本—47訂版』帝国書院。 富田啓介（2020）『あれもこれも地理学：文化・社会・経済を地理学で読み解く』ベル出版。 野間晴雄・香川貴志・土平博・河角龍展・山田周二・小原丈明（2017）『ジオ・パルNEO—			

地理学・地域調査便利帖 第2版』海青社.

学生に対する評価 授業外課題 (20%)、定期試験 (50%)、発表 (30%)

授業科目名： 地誌	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：南春英 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地誌		
授業のテーマ及び到達目標 本講義を受講することによって受講者が、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることを目指す。また、地域を科学的に見ることを目指す。			
授業の概要 日本とアメリカ、中国と韓国の自然環境と産業、社会、文化の特色について講義する。受講者は、授業を通して地域概念について理解し、空間スケールに着目しながら日本および世界の地理的多様性に関する知見を深める。			
授業計画 第1回： イントロ 授業内容の説明 第2回： 地誌学とは 地誌学の目的とアプローチ 第3回： 日本の事例① 原宿：歴史と若者の街 第4回： 日本の事例② 福岡：近代産業と九州地域における福岡一極集中 第5回： 日本の事例③ 郡上八幡町：水資源を利用したまちづくり 第6回： アメリカ合衆国の地誌① 自然環境と自然災害 第7回： アメリカ合衆国の地誌② 産業と暮らし 第8回： 中国の地誌① 中国自然環境と自然災害 第9回： 中国の地誌② 中国の抱える人口問題の現状 第10回： 中国の地誌③ 中国の多民族と文化の多様性 第11回： 中国の地誌④ 中国自然環境と人文環境から生まれた食文化 第12回： 中国の地誌⑤ 中国人の現在の暮らし 第13回： 韓国の地誌① 自然環境と文化 第14回： 韓国の地誌② 産業と暮らし 第15回： まとめ 定期試験			
テキスト 教科書はない。授業中に資料を配布する。			
参考書・参考資料等 オリヴィエ・ダベヌ、フレデリック・ルオーほか（2018）『地図で見るラテンアメリカハンドブック』原書房。			

可児弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社.
河上税・田村俊和（2009）『日本からみた世界の地域 世界地誌概説』原書房.
菊地俊夫（2011）『日本（世界地誌シリーズ1）』朝倉書店.
季 増民（2008）『中国地理概論』ナカニシヤ出版.
高井潔司・藤野 彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための40章』明石書店.
陳 舜臣・尾崎秀樹（1993）『中国：読んで旅する世界の歴史と文化』新潮社.
帝国書院編集部（2022）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院.
帝国書院（2023）『最新基本地図—世界・日本—47訂版』帝国書院.
藤野 彰（2018）『現代中国を知るための52章』明石書店.
矢ヶ崎典隆（2011）『アメリカ（世界地誌シリーズ4）』朝倉書店.
矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店.
立正大学地理学教室（2007）『日本の地誌』古今書院.

学生に対する評価

授業外課題（40%）、定期試験（40%）、授業参加度（20%）

授業科目名： 世界史教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤野 明彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標 世界史関連科目を教授する教員として必要な基礎的・基本的な知識と理論を学ぶ。世界の歴史・文化を広く眺め、世界は互いに関連し合いながら形作られてきていることを意識しながら、世界を多面的・多角的に考察し、特に担当者が長年関与してきたユネスコスクールの理念にも基づき、持続可能な開発（SDGs）、地球市民意識、異文化理解を重視した教育方法を身に付け、生徒自身が探究するための教材や授業展開方法を理解しその為の授業計画を作成し、実施できるようになることを目標とします。</p>			
<p>授業の概要-</p> <p>本講義では高等学校世界史の教育内容と指導法を理解し、授業設計ができるようにするために、世界各地の歴史や文化の成り立ち・その背景を学習指導要領の目標・内容などの解説を交えながら具体的に学んでいく。ヒト・モノ・カネの移動、海域アジア、世界遺産を取り上げ、また現代的な課題につながる近現代のヨーロッパ・アフリカ・アジア・アメリカの歴史的展開を相互的な視野から世界を捉えていく。文字資料・写真・映像資料を交えながら、ユネスコスクールの視点（持続可能性、地球市民、異文化理解）も授業に取り入れる力を身につける。単なる知識偏重の暗記教育ではなく、生徒の探究的な学びを促進する教材開発力とファシリテーション力、それをサポートするICT機器等（=チョーク&トークではない授業）の活用力も養う。</p>			
<p>授業計画 第1回：学習指導要領と世界史の教育目標及び内容</p> <p>第2回：イントロダクション：学習指導要領／学習指導案と世界史の見方・考え方 教育制度とグローバルな視点</p> <p>第3回：歴史教育の理論と実践 古代文明と環境との関係 SDGsの目標13（気候変動） 地球市民教育の基盤 感染症の現在</p> <p>第4回：世界遺産から見る世界史 ボロブドゥール遺跡からマチュピチュまで 姫路城もコロッセオも自由の女神も</p> <p>第5回：帝国主義と植民地支配の教育的扱い SDGsの目標10（不平等の是正）</p> <p>第6回：戦争と平和の歴史教育 SDGsの目標16（平和と公正）</p> <p>第7回：世界の三大宗教と民族：アフリカ・ヨーロッパ・アジア（中東と日本）</p> <p>第8回：異文化理解と歴史教育 SDGsの目標17（パートナーシップ） ジェンダー視点からも SDGsの目標5（ジェンダー平等）</p> <p>第9回：ユネスコスクールの理念と視点から見た世界史教育 ESD（持続可能な教育）から見た良い授業とは何か？</p> <p>第10回：授業づくりワークショップ①：教材開発：生徒の探究活動支援と評価方法 SDGsの目標4（教育の質）</p> <p>第11回：授業づくりワークショップ②：模擬授業にむけて実践力の育成 映像に見る近現代世界とICT</p> <p>第12回：学習指導案／さまざまな授業方法：地域史とグローバルな視点の融合 SDGsの目標11（持続可能な都市）</p> <p>第13回：世界の地域あるいは国を紹介してみよう：学生による模擬授業①SDGsの目標12（持続可能な消費） から</p> <p>第14回：世界の地域あるいは国を紹介してみよう：学生による模擬授業②</p> <p>第15回：まとめと振り返り 指導の理念の統合：学力と評価 「こんな教員になりたい！」か？</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキスト 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』			
参考書・参考資料等 毎回の授業内で随時紹介いたします。			
学生に対する評価 毎回の授業参加度とリアクションペーパー（50%）、模擬授業／期末課題（50%）			

授業科目名： 日本史教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：池田 卓也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 〈テーマ〉高等学校地理歴史科「歴史総合」・「日本史探究」の指導内容・方法の理解と実践 〈到達目標〉 1. 『高等学校学習指導要領』地理歴史科「歴史総合」・「日本史探究」の目標・内容及び指導上の留意点を理解している。 2. 生徒の実態を視野に入れて、情報通信技術を効果的に活用した地理歴史科「歴史総合」・「日本史探究」の授業設計を行い、学習評価の考え方を理解している。 3. 歴史学を中心とする関連領域や歴史分野における実践研究の動向を理解し、学習指導の位置づけを考察して、授業設計の向上や教材研究に活用できる。 4. 基本構成の理解のもとに学習指導案を作成し、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。			
授業の概要 高等学校地理歴史科「歴史総合」・「日本史探究」の内容構成や基礎的な指導方法、歴史学を中心とする関連領域について理解を深めたうえで、授業設計から模擬授業の実施を経て授業改善に至る一連の過程を実践し、授業力の基礎を身に付けることを目指す。			
授業計画 第1回：オリエンテーション — 「学習指導要領」における歴史教育— 第2回：歴史学と歴史教育 — 日本史分野を中心に— 第3回：『高等学校学習指導要領』における「歴史総合」の目標・内容と指導上の留意点 第4回：『高等学校学習指導要領』における「日本史探究」の目標・内容と指導上の留意点 第5回：授業設計について 第6回：教材研究の基礎 — 「教科書には「色」がある」・「史資料の効果的な活用」ほか— 第7回：教材研究の実践 第8回：学習評価について 第9回：学習指導案の作成 第10回：模擬授業〔「歴史総合」〕の実施（情報通信技術の活用を含む） 第11回：模擬授業〔「歴史総合」〕の振り返り 第12回：模擬授業〔「日本史探究」〕の実施（情報通信技術の活用を含む） 第13回：模擬授業〔「日本史探究」〕の振り返り 第14回：授業改善を考える			

第15回：「日本史教育法」のまとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）』（東山書房、2019年）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編（平成30年7月）』（東洋館出版社、2019年初版）※2021年8月一部改訂。

国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史』（東洋館出版社、2021年）

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年7月）』（東洋館出版社、2018年）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編（平成29年7月）』（日本文教出版、2018年）

その他、必要に応じて紹介します。

学生に対する評価

模擬授業の内容（35%）、学習指導案の内容（30%）、授業への参加態度・貢献度（20%）、コメントペーパー・相互評価（15%）

授業科目名： 地理教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：南 春英 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>高等学校における地理分野の学習指導要領の目標や内容と留意点を考え、理解する。また、地理歴史教育やカリキュラムの歴史的な変遷を踏まえて、地理歴史教育の今日的意義について説明することができる。さらに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地理分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学び、地理歴史教育の新たな試みについて講義していく上で、授業づくりのための基礎的力を身につける。また、教員として授業を担当する際、どのように教材研究をするのか、生徒に対してどの学習方法をもって授業を展開していくのかについて学習する。地理歴史科についての模擬授業(教育実践研究)を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身につける。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス 授業内容の説明			
第2回：戦後の社会科の教科のねらいと教育課程の編成			
第3回：地理歴史科分野の学習指導要領の変遷			
第4回：地理歴史科の地理総合と地理探求における性格と目標および内容とその取り扱い			
第5回：地理歴史科の地理総合と地理探求における学習指導要領の指導上の留意点			
第6回：地理歴史科の地理総合と地理探求における学習指導要領の学習評価			
第7回：具体的な教材研究① 地理歴史科地理総合「地図や地理情報システムで捉える現代世界」の内容構成			
第8回：具体的な教材研究② 地理歴史科地理総合「国際理解と国際協力」の内容構成			
第9回：具体的な教材研究③ 地理歴史科地理総合「持続可能な地域づくりと私たち」の内容構成			
第10回：情報通信技術の活用 電子国土基本図（ウェブサイトの「地理院地図」）の閲覧と活用方法をそれぞれ紹介する。新旧の原宿周辺の空中写真を比べ、その変化の背景やその後の変遷について理解させる。			
第11回：授業研究① 日本 指導案の実例と検討			
第12回：授業研究② アジア 指導案の実例と検討			
第13回：模擬授業設計と指導案の作成			

第14回：模擬授業 グループごとプレゼンテーション

第15回：まとめ 模擬授業の振り返り グループごとの授業改善点の検討 実践研究の動向
定期試験

テキスト

文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編 平成29年7月』東洋館出版社.

参考書・参考資料等

青木和人（2023）『はじめての地理院地図：地図学習・防災学習に使おう』古今書院.

碓井照子（2018）『「地理総合」ではじまる地理教育：持続可能な社会づくりをめざして』古今書院.

伊藤直之（2022）『地理歴史授業の国際協働開発と教師への普及：資質・能力の多様性と学際性を視点として』風間書房.

高等学校地理歴史科（地理・日本史・世界史）の文部科学省検定済み教科用図書（教科書）.

櫻井明久（2011）『社会科教師のための地理教材の作り方』古今書院.

新保修（2021）『主体的・対話的で深く、新学習指導要領を読む』東洋館出版社.

高橋参吉（2021）『教職・情報機器の操作 - ICTを活用した教材開発・授業設計』コロナ社.

田部俊充・田尻信壹（2016）『大学生のための社会科授業実践ノート 増補版Ⅱ』風間書房.

中平一義・茨木智志・志村喬（2021）『中等社会系教科教育研究：社会科・地理歴史科・公民科』風間書房.

西野和典（2022）『情報通信技術を活用した教育の理論および方法』実京出版.

吉水裕也（2023）『地理的な見方・考え方を働かせた地理授業デザイン』明治図書出版.

湯本浩之・西岡直也・黛京子（2024）『SDGs時代の地理教育：「地理総合」への開発教育からの提案』学文社.

学生に対する評価

授業指導案（30%）、発表（30%）、定期試験（40%）

授業科目名： 憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三枝 昌幸 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標：1. 憲法の基礎知識を習得すること。 2. 具体的な憲法問題について自身の見解を説明できるようになること。			
授業の概要：本講義では憲法の基礎について学習する。最初に憲法の意義や歴史を解説し、次に統治の仕組みを解説する。これらの知識を踏まえつつ、憲法が保障する人権の意義や内容、限界について解説する。講義では具体的事例も取り上げて、憲法問題の解決方法を探る。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：憲法の意義や歴史について学習する。憲法の役割について各自の見解をまとめ、討論する。</p> <p>第2回：国会の仕組みや権限について学習する。国会に関する事例問題を検討する。</p> <p>第3回：内閣の仕組みや権限について学習する。内閣に関する事例問題を検討する。</p> <p>第4回：裁判所の仕組みや権限について学習する。裁判所に関する事例問題を検討する。</p> <p>第5回：地方自治の仕組みについて学習する。地方自治に関する事例問題を検討する。</p> <p>第6回：人権の歴史や分類について学習する。人権の意義について各自の見解をまとめ、討論する。</p> <p>第7回：信教の自由の意義や内容について学習する。信教の自由に関する事例問題を検討する。</p> <p>第8回：表現の自由の意義や内容について学習する。表現の自由に関する事例問題を検討する。</p> <p>第9回：職業選択の自由の意義や内容について学習する。職業選択の自由に関する事例問題を検討する。</p> <p>第10回：刑事手続上の権利の意義や内容について学習する。刑事手続上の権利に関する事例問題を検討する。</p> <p>第11回：生存権の意義や内容について学習する。生存権に関する事例問題を検討する。</p> <p>第12回：労働基本権の意義や内容について学習する。労働基本権に関する事例問題を検討する。</p> <p>第13回：選挙権の意義や内容について学習する。選挙権に関する事例問題を検討する。</p> <p>第14回：法の下での平等の意義や内容について学習する。法の下での平等に関する事例問題を検討する。</p> <p>第15回：新しい人権の実現方法や内容について学習する。新しい人権に関する事例問題を検討する。</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト：使用しない（レジュメを配布する）。</p> <p>参考書・参考資料等：使用しない。</p> <p>学生に対する評価：授業参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>			

授業科目名： スポーツ実技A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：白井 大史 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。</p> <p>また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。</p>			
<p>授業の概要 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボールなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1回：オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）</p> <p>第 2回：卓球（ルール解説、サーブ、基本プレイ）</p> <p>第 3回：卓球（シングルスゲーム）</p> <p>第 4回：卓球（ダブルスゲーム）</p> <p>第 5回：ソフトボール（ルール解説、守備）</p> <p>第 6回：ソフトボール（攻撃、走塁）</p> <p>第 7回：ソフトボール（ゲーム）</p> <p>第 8回：テニス（ルール解説、サーブ、基本プレイ）</p> <p>第 9回：テニス（シングルスゲーム）</p> <p>第10回：テニス（ダブルスゲーム）</p> <p>第11回：バドミントン（ルール解説、ディフェンスプレイ）</p> <p>第12回：バドミントン（オフェンスプレイ）</p> <p>第13回：バドミントン（シングルスゲーム）</p> <p>第14回：バドミントン（ダブルスゲーム）</p> <p>第15回：本講のまとめ</p>			
テキスト	特になし		
参考書・参考資料等	特になし		
学生に対する評価	授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。		

授業科目名： スポーツ実技B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：白井 大史 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。</p> <p>また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。</p>			
<p>授業の概要 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、バスケットボール、バレーボール、サッカー、フットサルなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1回：オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）</p> <p>第 2回：フットサル（ルール解説、オフenseプレイ）</p> <p>第 3回：フットサル（ゲーム）</p> <p>第 4回：サッカー（ルール解説、ディフェンスプレイ）</p> <p>第 5回：サッカー（オフenseプレイ）</p> <p>第 6回：サッカー（ゲーム）</p> <p>第 7回：バスケットボール（ルール解説、ディフェンスプレイ）</p> <p>第 8回：バスケットボール（オフenseプレイ）</p> <p>第 9回：バスケットボール（ゲーム）</p> <p>第10回：バスケットボール（3x3のルール解説、ゲーム）</p> <p>第11回：バレーボール（ルール解説、ディフェンスプレイ）</p> <p>第12回：バレーボール（オフenseプレイ）</p> <p>第13回：バレーボール（ゲーム）</p> <p>第14回：バレーボール（ソフトバレーボールのルール解説、ゲーム）</p> <p>第15回：本講のまとめ</p>			
テキスト	特になし		
参考書・参考資料等	特になし		
学生に対する評価	授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。		

授業科目名： 英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：末次 俊之 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法、語彙、リスニング、ライティングの基礎学力を向上させる。 2. 平易な英語を正確に読み取り、身近な事柄について表現できる。 			
授業の概要			
<p>中学・高校の基礎的英語を強化、補足します。文法の基礎、初歩リスニング、ライティングを通じて、総合的英語能力のアップを図ります。</p>			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション：授業の進め方、事前・事後学習の方法についての説明、自己紹介			
第 2 回：Unit 1：Welcome to Japan 1			
第 3 回：Unit 1: Welcome to Japan 2			
第 4 回：Unit 2: That Sounds Like Fun 1			
第 5 回：Unit 2: That Sounds Like Fun 2			
第 6 回：Unit 3: We Leave on Friday Morning 1			
第 7 回：Unit 3: We Leave on Friday Morning 2			
第 8 回：Unit 4: You Know a Lot About Trains 1			
第 9 回：Unit 4: You Know a Lot About Trains 2			
第 1 0 回：Unit 5: I Didn't Want to Leave 1			
第 1 1 回：Unit 5: I Didn't Want to Leave 2			
第 1 2 回：Unit 6: You're Working Late 1			
第 1 3 回：Unit 6: You're Working Late 2			
第 1 4 回：Unit 7: I'm Sure He'll Understand 1			
第 1 5 回：Unit 7: I'm Sure He'll Understand 2			
定期試験			
テキスト Robert Hickling 臼倉美里『English First basic 大学英語の総合的アプローチ：基礎編』（金星堂、2020年）			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価			
<p>学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに授業内評価（授業参加状況、英単語クイズ、小テスト、50%）を総合して評価します。</p>			

授業科目名： 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：末次 俊之 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ニュース英語にふれ、表現に慣れる。 2. 英文記事からさまざまなテーマを通じて世界の動向を理解する。 			
授業の概要			
時事英語を扱う教科書を使い、ビジネス、文化、環境、社会、科学、ファッションなどのテーマでニュース記事を読みます。英文記事を用いて、リスニング、グラマーチェック、日本語訳などを行います。ニュース記事を読むことによって、語彙力のアップにもつながります。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：授業の進め方、事前・事後学習の方法についての説明、自己紹介			
第2回：Unit 8: I'll Remember That 1			
第3回：Unit 8: I'll Remember That 2			
第4回：Unit 9: Hiro Forgot 1			
第5回：Unit 9: Hiro Forgot 2			
第6回：Unit 10: How Have You Been? 1			
第7回：Unit 10: How Have You Been? 2			
第8回：Unit 11: While They're Here 1			
第9回：Unit 11: While They're Here 2			
第10回：Unit 12: How Was Tennis? 1			
第11回：Unit 12: How Was Tennis? 2			
第12回：Unit 13: What Do you Mean? 1			
第13回：Unit 13: What Do you Mean? 2			
第14回：Unit 14: Well, What Are You Waiting For? 1			
第15回：Unit 14: Well, What Are You Waiting For? 2			
定期試験			
テキスト Robert Hickling 臼倉美里『English First basic 大学英語の総合的アプローチ：基礎編』（金星堂、2020年）			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）ならびに授業内評価（授業参加状況、単語クイズ、小テスト、50%）を総合して評価します。			

授業科目名： コンピュータプレゼンテーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：金 幸郁 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 基礎的なプレゼンテーション手法について理解し、PCで情報を的確に伝えるスライドを作成し、それらを効果的に活用したプレゼンテーションを行うことが目標となる。			
授業の概要 プレゼンテーション能力はアカデミックのみならず、一般社会においても必要不可欠な能力となっている。とりわけ現代社会においては、PCを活用したプレゼンテーションが求められており、PCを効果的に活用したプレゼンテーションの手法について演習を通して学習する。			
授業計画 第 1回：シラバスの確認、プレゼンテーションとPCの活用 第 2回：スライドファイルの作成と基本操作 第 3回：プレゼンテーションの実践 ～個人での発表 (1) 第 4回：プレゼンテーションの実践 ～個人での発表 (2) 第 5回：効果的なスライドの作成 第 6回：グループでのプレゼンテーション ～企画立案 第 7回：グループでのプレゼンテーション ～リサーチと構成 第 8回：グループでのプレゼンテーション ～スライドの作成 第 9回：プレゼンテーションの実践 ～グループでの発表 (1) 第10回：プレゼンテーションの実践 ～グループでの発表 (2) 第11回：プレゼンテーション手法の研究 第12回：個人でのプレゼンテーション ～企画立案、リサーチ 第13回：個人でのプレゼンテーション ～スライドの作成 第14回：プレゼンテーションの実践 ～個人での発表 (3) 第15回：プレゼンテーションの実践 ～個人での発表 (4)			
テキスト	指定しない		
参考書・参考資料等	講義内で指示する		
学生に対する評価 授業内での演習・発表 (60%)、授業への取り組み (20%)、課題提出 (20%) 等で総合評価する。			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：大沢 裕 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 教育の意義、理念について理解し、教育の思想と歴史的変遷について学び、教育の基礎的理論を理解する。教育の制度・法規について理解する。教育実践の様々なあり方を知る。生涯学習社会の教育の現状と課題について認識する。			
授業の概要 教育の理念と意味、教育思想の歴史的変遷(我が国と欧米の場合)、教育の目的・内容・方法の関連、教育制度・法規の実際、生涯学習社会における教育のあり方、現代の教育の喫緊の課題などを、特に幼中等教育に視点を合わせて理解させる。この過程を通して、教育に関する基礎的・基本的概念の習得をさせ、教育活動における実践原理の体系的な理解を促す。教育現場との関連性を意識しながら教授する。 授業形態は、講義の他に、グループ討論と発表、VTR視聴とその検討を含む。			
授業計画 第1回：教育の本質と意義 第2回：教育の目的・理念 第3回：家庭教育（家族の教育） 第4回：学校教育 第5回：社会教育 第6回：諸外国の教育思想と歴史（古代） 第7回：諸外国の教育思想と歴史（中世とルネッサンス期） 第8回：諸外国の教育思想と歴史（近代） 第9回：我が国の教育思想と歴史 第10回：人権教育 第11回：近代の教育制度・教育法規の基礎 第12回：教育の内容 第13回：教育の方法 第14回：教育実践の様々な取り組み 第15回：生涯学習と現代の教育課題 定期試験			
テキスト 『教育の知恵 60 教師・教育者を励まし勇気づける名言集』（大沢裕編著、一藝社）			
参考書 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 その他、必要に応じて授業内で紹介する。			
学生に対する評価 教育者として必須の、教育に関わる基礎的事項が理解でき、教育的なものの見方・考え方が身についているかを、討論の発表内容、複数回提出させるレポートの内容、筆記試験によって総合的に評価する。			

授業科目名：教師論	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：小澤 昌之 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①今日の学校教育や教職の社会的意義について、自分の考えを述べることができる。</p> <p>②教師像の変遷を概観し、今日の教師に求められる役割や、資質・能力を説明できる。</p> <p>③教員の職務と義務を理解し、職務遂行のために何が必要かをディスカッションできる。</p> <p>④教員の服務上・身分上の義務と身分保障について理解できる。</p> <p>⑤チーム学校への対応を理解し、家庭・学校・社会との連携の必要性を説明できる。</p>			
授業の概要			
<p>この授業は教職を将来の選択肢として考え、現代社会において教職に求められる教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、自らの適性を判断し教職への意欲を高めることを目標とします。具体的には（1）教職の社会的意義、（2）教員に求められる役割や資質能力、（3）教員の職務内容の全体像や教員の服務、（4）学校が内外の専門家等と連携する「チーム学校」への対応など教職に関する基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。</p>			
授業計画			
<p>第1回：「教師論」を学ぶ意味（オリエンテーション）：授業の概要および評価方法等について説明する。教師を目指すということについて考える。</p> <p>第2回：公教育の特質と教職の意義：教師の仕事とその魅力について学ぶ。</p> <p>第3回：教師の職務内容：日本の教職の特徴と専門性について学ぶ。</p> <p>第4回：教職の歴史：教師像の変遷について学ぶ。</p> <p>第5回：教師教育の制度①：教師の服務と職務上・身分上の義務について学ぶ。</p> <p>第6回：教師教育の制度②：教員の権利と身分保障について学ぶ。</p> <p>第7回：教師教育の制度③：学び続ける教師と教員研修制度について学ぶ。</p> <p>第8回：多様な関係者との連携のあり方—チーム学校：「チームとしての学校」の対応や、保護者や地域との連携・協働の在り方について学ぶ。</p> <p>第9回：教師の専門職性①：「学びの場」を生み出す教師について学ぶ。</p> <p>第10回：教師の専門職性②：〈いのち〉に向き合う学校づくりについて学ぶ。</p> <p>第11回：教師と生徒の関係①：いじめの実情と自尊感情の醸成について学ぶ。</p> <p>第12回：教師と生徒の関係②：生徒における性の多様性をめぐる課題について学ぶ。</p> <p>第13回：多様化する子どもの課題：子どもたちの今日的課題（子どもの貧困、特別支援教育のニーズ、不登校など）について学ぶ。</p>			

第14回：教師に求められる資質・能力：「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿について学ぶ。

第15回：まとめ・変わり続ける教師像に向き合う：まとめ、学びの振り返りを行う。

定期試験

テキスト 汐見稔幸・那須正裕・佐久間亜紀・佐伯胖編『現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年
ISBN：978-4-623-08536-

参考書・参考資料等 小島弘道・比神正行・平井貴美代『教師の条件-改訂新版: 授業と学校をつくる力-』学文社、2024年

八尾坂修編『新時代の教職概論 学校の役割を知る 教師の仕事を知る』ジダイ社、2018年

秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門第3版』有斐閣、2024年

そのほか授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。

学生に対する評価

ポートフォリオ評価（コメントカード・ディスカッションペーパー、レポート課題、振り返り等）60%、小テスト10%、期末試験30%で総合評価する。

※ポートフォリオ評価は、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：小澤 昌之 深谷 野亜 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>学校・家庭・社会を中心として、教育という営みを「社会学」の視点から理解し、「常識」とされる事柄を客観的に捉えなおすことができるようになることを目指す。教育格差や貧困などのように、現代社会のかかえる問題について、その現状や背景を知り、自分の言葉で社会的に論じることができるようになることを最終目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>この授業では、教育社会学の研究成果や統計・調査データを紹介しながら、学校・家庭・社会という場所を中心としながら、広い範囲で影響をおよぼす「教育」について客観的に理解することを目指す。「ジェンダー」「学校教育」「学校安全への対応」といったテーマをもとに、自らの「常識」を問い直す作業を通して、教育に関わる問題や課題について社会的視点から検討していく。</p>			
授業計画			
第1回：イントロダクションー教育社会学とは何か（担当：小澤）			
第2回：学校教育(1)：学級・ホームルームの仕組み（担当：小澤）			
第3回：学校教育(2)：教員組織と教師の役割（担当：小澤）			
第4回：学校教育(3)：教師ー生徒関係と学校文化（担当：小澤）			
第5回：学校教育とジェンダー：学校空間と進学に注目して（担当：深谷）			
第6回：日本の教育を取り巻く環境：教室にある多様性（担当：小澤）			
第7回：家庭と教育(1)：教育する家族と戦後日本社会（担当：深谷）			
第8回：家庭と教育(2)：家庭教育と幼児教育の変化（担当：深谷）			
第9回：家庭と教育(3)：社会化過程と子育ての多様化（担当：深谷）			
第10回：家庭と教育(4)：現代社会の貧困と家庭での教育の関係（担当：深谷）			
第11回：「学歴社会」の変貌：学校教育と選抜のメカニズム（担当：小澤）			
第12回：学校と社会(1)：進学・就職の多様化と若者の仕事（担当：小澤）			
第13回：学校と社会(2)：教育格差の拡大と対応した日本の教育政策（担当：深谷）			
第14回：学校と社会(3)：学校・家庭・社会による危機管理対応のゆくえ（担当：深谷）			
第15回：学校・家庭・社会における課題の深層と今後のゆくえ（担当：小澤）			
定期試験			
テキスト			

荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗『新・教育の社会学 -- 〈常識〉の問い方, 見直し方』有斐閣 (2023年) そのほか授業にて参考文献を指示する

参考書・参考資料等

相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子〔編〕『y-kont これからの教育社会学』有斐閣 (2023年)

中村高康・松岡亮二〔編〕『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房 (2021年)

久富善之・長谷川裕〔編〕『教育社会学―第二版』学文社 (2019年)

飯田浩之・岡本智周『教育社会学 (MINERVAはじめて学ぶ教職)』ミネルヴァ書房 (2018年)

学生に対する評価

授業内容への参加状況等 (30%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：田村 修一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。			
授業の概要 幼児、児童及び生徒の心身の発達および学習の過程について、心理学的なメカニズムを学ぶことにより、将来、教職に携わる者として必要な発達と学習の支援のあり方について考える。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の進め方・評価方法の説明）、発達とは何か（成熟と学習） 第2回：発達段階と発達課題 第3回：運動と言語の発達 第4回：認知の発達 第5回：社会性の発達 第6回：思春期・青年期とアイデンティティの確立 第7回：学習の理論（条件づけと観察学習） 第8回：認知と学習（記憶のメカニズム） 第9回：学習形態と指導 第10回：動機づけ 第11回：学級のアセスメントと集団づくり 第12回：学習の評価 第13回：発達と教育（これからの教育に必要なこと） 第14回：発達障害（LD・ADHD・自閉症スペクトラム）の理解 第15回：発達障害（LD・ADHD・自閉症スペクトラム）の支援 定期試験			
テキスト 「発達と学習」第2版 内藤佳津雄・北村世都・鏡直子 弘文堂 2020年			
参考書・参考資料等 「よくわかる学校心理学」水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 ミネルヴァ房 2013年			
学生に対する評価 平常点（リアクションペーパー・振り返りレポート）40%と期末試験60%の総合評価。			

授業科目名：特別の支援 を必要とする生徒の理解	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：長南 浩人 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解		
授業のテーマ及び到達目標 障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が、あらゆる教育場面で学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業の概要 授業においては、パワーポイントを用いた講義による理論の学習と実践力を向上させるための事例検討を多く扱う。受講者はそれらに対して、グループ討議やペア・ワークなどを通して主体的に学ぶ。			
授業計画 第1回：インクルーシブ教育を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 第2回：特別支援教育の教育課程 第3回：障害の理解と教育的対応1 発達障害(1) 自閉症スペクトラム・注意欠如多動性障害 第4回：各障害の理解と教育的対応1 発達障害(2) 学習障害 第5回：各障害の理解と教育的対応2 知的障害 第6回：各障害の理解と教育的対応3 肢体不自由 第7回：障害の理解と教育的対応4 病弱・身体虚弱 第8回：各障害の理解と教育的対応5 視覚障害 第9回：各障害の理解と教育的対応6 聴覚障害 第10回：各障害の理解と教育的対応7 盲ろう（視覚聴覚重複障害） 第11回：個別の教育的配慮—個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法 第12回：通級による指導と自立活動の理論と実践 第13回：学校と関係機関・家庭との連携による支援体制の構築 第14回：障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援 第15回：個別支援教育の実践及び研究動向と今後の課題 定期試験			
テキスト ・原幸一・堀家由妃代編著『特別支援教育』ミネルヴァ書房, 2019			
参考書・参考資料等 ・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説—総則等編—（幼稚部・小学部・中学部）および（高等部）』・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説—自立活動編—（幼稚部・小学部・中学部・高等部）』・富永光昭・和田良彦『教員養成、学習指導案作成、教育実習の押さえどころ』福村出版, 2025			
学生に対する評価 授業参加状況等(15%)、小テスト・レポート等(15%)、定期試験(70%)で総合評価する			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小野村 浩 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標 1.教育課程の内容、学習指導要領の歴史や変遷を知り、編成のあり方を理解する 2.学習指導要領や根拠となる法令（憲法/教育基本法/学校教育法/学校教育法施行規則等）の位置付けを理解する 3.教育課程の基本的な構造について理解する 4.教育課程の編成の方法やカリキュラム・マネジメント、評価のあり方について理解する 5.教育課程の編成と学校の組織体制、関係機関との連携のあり方について理解し、組織の一員として連携できるようになる 6.年間行事計画の編成や学校行事等のあり方と教育課程編成との関連を理解する 7.生活指導・教育相談・進路指導等との関連について理解し、教員として指導することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要 1.教育課程の意義及び編成の方法。2.教育課程に関連する法令（憲法/教育基本法/学校教育法/学校教育法施行規則等）及び学習指導要領の位置付け。3.学習指導要領の変遷と教育課程の編成。4.教育課程・学習指導要領変遷の背景や現状と課題。5.教育課程の編成と学校の組織的な指導計画・指導体制・関係機関との連携のあり方。6.特別活動・「総合的な学習の時間」・生活指導・進路指導等との関連。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育課程の意義とカリキュラムの意味。学校教育の現状と教育課程上の課題について。</p> <p>第2回：教育課程と学習指導要領</p> <p>第3回：「生きる力」を育てる～学習指導要領改訂の経緯～平成29・30・31年改訂学習指導要領の特色</p> <p>第4回：確かな学力を育てる～言語活動の充実と学力向上対策～〈協議・グループ発表〉</p> <p>第5回：「生きる力」と「確かな学力」・「総合的な学習（探究）の時間」〈協議・グループ発表〉</p> <p>第6回：「豊かな心」を育てる～全教育活動を通じて行う道徳教育～〈協議・グループ発表〉</p> <p>第7回：「健やかな体」を育てる～健康・安全に関する教育～</p> <p>第8回：「自己肯定感」「規範意識」を高める～特別活動と部活動等～〈協議・グループ発表〉</p> <p>第9回：教育課程編成の実際・実施上の配慮事項と学校評価</p> <p>第10回：「開かれた学校」の具現化と地域連携について〈協議・グループ発表〉</p> <p>第11回：教育課程をめぐる諸課題（人権教育・生命尊重教育・国際理解教育）</p> <p>第12回：教育課程をめぐる諸課題（総合的な学習の時間等）及び平成29・30・31年改訂学習指導要領</p> <p>第13回：教育課程をめぐる諸課題（キャリア教育等）及び平成29・30・31年改訂学習指導要領</p> <p>第14回：教育課程をめぐる諸課題（特別支援教育等）及び平成29・30・31年改訂学習指導要領</p> <p>第15回：まとめ・・・「学校不要論に対して、教師としてどのように考えますか。」〈協議〉</p> <p>定期試験</p>			
テキスト 授業中に毎時資料を配布する			
<p>参考書・参考資料等 『教育課程論』吉田武男監・根津朋実編・ミネルヴァ書房 2019.2</p> <p>『中学校学習指導要領（平成29年告知）解説 総則編』文部科学省</p> <p>『高等学校学習指導要領（平成30年告知）解説 総則編』文部科学省</p>			
学生に対する評価 課題レポート（5点×14回）期末レポート（20点）グループワーク発言等（10点）			

授業科目名：総合的な 学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小野村 浩 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 1.総合的な学習の時間の歴史や変遷を知り、指導のあり方を理解し取り組めるようになる 2.総合的な学習（探究）の時間の学習指導要領上の位置付けを理解する 3.総合的な学習（探究）の時間の意義や役割を理解し、指導・評価できるようになる 4.総合的な学習の時間が誕生した背景や現状と課題を知り、児童・生徒に対するアプローチの方法を探究する 5.総合的な学習（探究）の時間のアクティブな授業展開とICTの活用方法を学ぶ 6.学校の組織体制、関係機関との連携のあり方について理解し、組織の一員として連携できるようになる 7.総合的な学習（探究）の時間と特別活動・進路指導との関連について理解し、教員として指導できるようになる			
授業の概要 1.総合的な学習（探究）の時間の内容と教育課程上の位置づけ、歴史的変遷。2.総合的な学習（探究）の時間と「生きる力」。3.総合的な学習（探究）の時間と教科指導・生活指導の関連や役割。4.総合的な学習（探究）の時間の指導の実際と評価のあり方。ICTの活用方法のあり方。5.総合的な学習（探究）の時間における学校の組織的な指導体制・関係機関との連携のあり方。6.総合的な学習（探究）の時間の小中高の学校種間連携と生活指導・特別活動・教育相談・進路指導等との関連。			
授業計画 第1回：総合的な学習（探究）の時間の目標及び主な内容 第2回：総合的な学習（探究）の時間の変遷及び位置づけと各教科等との関連 第3回：「生きる力」と確かな学力観＜協議・グループ発表＞ 第4回：ホームルーム活動・学校行事・クラブ活動等との関連 第5回：教育課程全体で取り組む総合的な学習（探究）の時間の指導のあり方 第6回：総合的な学習（探究）の時間の評価のあり方。＜協議・グループ発表＞ 第7回：総合的な学習（探究）の時間の意義とあり方 第8回：総合的な学習（探究）の時間における地域・関係機関との連携 第9回：総合的な学習（探究）の時間と「生きる力」。平成29・30・31年改訂学習指導要領の主体的・対話的な深い学び 第10回：総合的な学習（探究）の時間とゆとり教育、未履修問題等の経緯 第11回：総合的な学習（探究）の時間の評価のあり方と地域連携・外部人材。＜協議・グループ発表＞ 第12回：総合的な学習（探究）時間の小中高の連携の現状と課題。＜協議・グループ発表＞ 第13回：教科横断的なカリキュラムの開発。＜グループ協議＞ 第14回：総合的な学習（探究）の時間の単元構想演習。＜協議・グループ発表＞ 第15回：まとめ「学校教育が目指す「生きる力」とは何か？」＜協議・グループ発表＞			
定期試験			
テキスト 授業中に毎時資料を配布する			
参考書・参考資料等 『高等学校学習指導要領（平成30年告知）解説 総合的な探究の時間編』文部科学省 『確実に力のつく総合的な学習の時間マネジメント』教育開発研究所 2016年			
学生に対する評価 課題レポート（5点×14回） 期末レポート（20点）グループワーク発言等（10点）			

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小野村 浩 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標 1.特別活動の歴史や変遷を知り、指導のあり方を理解し取り組めるようになる 2.根拠となる法令（憲法/教育基本法/学校教育法/学校教育法施行規則等）及び学習指導要領上の位置付けを理解する 3.特別活動における生徒指導の意義や役割を理解し、指導・評価できるようになる 4.特別活動が始まった背景や現状と課題を知り、教師として児童・生徒に対するアプローチの方法を探究し、教員として正しく指導することができるようになる 5.学校の組織体制、関係機関との連携のあり方について理解し、組織の一員として連携できるようになる 6.生活指導・教育相談・進路指導等との関連について理解し、教員として指導することができるようになる</p>			
<p>授業の概要 1.特別活動の内容と教育課程上の位置づけ、歴史の変遷。2.特別活動の学習指導要領上の位置付け。3.特別活動における生徒指導の意義や役割。4.指導の実際と評価のあり方。5.学校の組織的な指導体制・関係機関との連携のあり方。6.生活指導・教育相談・進路指導等との関連。</p>			
<p>授業計画 第1回：特別活動の目標及び主な内容。 第2回：教育課程における特別活動の歴史及び位置づけ。 第3回：教育課程における特別活動の各教科等との関連。 第4回：学級活動・ホームルーム活動・生徒会（児童会）活動・学校行事・クラブ活動の特質 第5回：教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方。 第6回：特別活動の評価のあり方と地域連携。〈協議・グループ発表〉 第7回：集団活動の意義と意思決定・合意形成につながる指導のあり方。 第8回：特別活動における家庭・地域・関係機関との連携。 第9回：「生きる力」と平成29・30・31年改訂学習指導要領の主体的・対話的・探究的な深い学びとの関連 第10回：ゆとり教育、未履修問題等の経緯。 第11回：特別活動の評価のあり方と地域連携・外部人材。〈協議・グループ発表〉 第12回：特別活動の小中高の連携の現状と課題。〈協議・グループ発表〉 第13回：教科横断的なカリキュラムの開発。〈グループ協議〉 第14回：総合的な学習（探究）の時間の単元構想演習。〈グループ発表〉 第15回：まとめ・・・「学校教育が目指す「生きる力」とは何か？」〈協議〉</p>			
定期試験			
テキスト 授業中に毎時資料を配布する			
<p>参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領（平成29年告知）解説 特別活動編』文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告知）解説 特別活動編』文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告知）解説 総合的な学習の時間編』文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告知）解説 総合的な探究の時間編』文部科学省</p>			
学生に対する評価 課題レポート（5点×14回） 期末レポート（20点） グループワーク発言等（10点）			

授業科目名：教育方法論（情報通信技術の活用含む）	教員の免許状取得のための必修科目（高等学校）	単位数：2単位	担当教員名：佐瀬 竜一
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>これからの社会を担う生徒に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法に関する知識や技術、ICT（情報通信技術）および教材の活用に関する基礎的な知識・技能・考え方を身に付ける。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法に関する知識や技術、ICT（情報通信技術）及び教材の活用に関する基本的な用語、活用の意義を分かりやすく説明することができる。 ・社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえて、個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、環境整備についての自分の考えを述べることができる。 ・授業で学んだ教育の方法に関する知識や技術、ICT（情報通信技術）及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を活用して、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業設計、学習指導案および教材の作成ができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>毎回、授業の最初に心身を落ち着かせるワークなどを行う。その後以下の「授業計画」に沿ってScrapboxなどを用いて、これからの社会を担う生徒に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法に関する知識や技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を段階的に理解し、修得することを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力、カリキュラムマネジメント</p> <p>第2回：これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びと協働的な学びの実現）</p> <p>第3回：授業を構成する基礎的な要件、カリキュラムマネジメント、インストラクショナルデザイン</p> <p>第4回：インストラクショナルデザインとICTの活用の実際（1）：学習目標、学習評価</p> <p>第5回：インストラクショナルデザインとICTの活用の実際（2）：教材・教具の基本、デジタル教材</p> <p>第6回：インストラクショナルデザインとICTの活用の実際（3）：授業法力の基本、ICTを用いた授</p>			

業方略

第7回：インストラクショナルデザインとICTの活用の実際（4）：主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びと協働的な学びを実現するための工夫およびICTの活用

第8回：個別最適な学びと協働的な学び、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善にICTを用いた最新の実践例（特別の支援を必要とする生徒へのICT活用を含む）

第9回：ICTを効果的に活用した遠隔・オンライン教育の方法やその実践例

第10回：ICTを用いた学習指導：学習履歴（スタディ・ログ）などの教育データ、ポートフォリオ、教育情報セキュリティ

第11回：統合型校務支援システムを含むICTを効果的に活用した校務の推進、学校におけるICT環境の整備の在り方

第12回：（情報モラルを含む）学習者の情報活用能力を育成する方法：基本的な考え方と実践事例

第13回：授業内容を踏まえた学習指導案の作成

第14回：作成した学習指導案の相互チェックと修正

第15回：授業の総括：学びの地図の作成

定期試験

テキスト 特定の教科書は使用しない。

参考書・参考資料等 授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

評価方法：学びの地図30%、作成した学習指導案30%、授業内外で課す入力課題40%

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：田村 修一 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1 現代の中学生・高校生の発達上の課題を理解できる。 2 学校心理学を基盤とした生徒指導・進路指導の進め方の概要を理解できる。 3 教員のチームによる生徒指導・進路指導の有効性と課題を理解できる。 			
授業の概要			
<p>生徒指導と進路指導は、生徒一人ひとりの学校生活や発達上の問題の解決や、将来の希望の実現を指導・援助する学校教育サービスの一つである。本科目は、学校心理学の視点から中学生・高校生を対象とした生徒指導・進路指導について考える。具体的には、現在の中学生・高校生の実態および発達上の課題を理解し、生徒指導提要に基づく生徒指導の望ましいあり方（生徒指導のモデル）と具体的な生徒指導課題に対する理解と指導・援助の基礎を学ぶ。さらに、進路指導の基礎理論およびキャリア教育の概要を理解し、具体的な進路指導の進め方について、事例を交えて考える。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業の進め方・評価方法の説明）、生徒指導の意義と原理			
第2回：現代の中学生・高校生の発達課題と教育課題			
第3回：2軸3類4層構造の生徒指導			
第4回：チーム学校による生徒指導体制の構築			
第5回：基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成（生徒指導に関する法制度と運用を含む）			
第6回：発達支持的生徒指導：学級経営の工夫			
第7回：課題予防的生徒指導：様々な教育プログラムの工夫			
第8回：困難課題対応的生徒指導① いじめの理解と対応			
第9回：困難課題対応的生徒指導② 不登校の理解と対応			
第10回：困難課題対応的生徒指導③ 発達障害の理解と支援			
第11回：進路指導の歴史と基礎理論			
第12回：キャリア教育概論			
第13回：基礎的汎用能力の育成			
第14回：個に応じた進路指導とキャリア・カウンセリング			
第15回：事例研究：キャリア教育の先進校の取り組みに学ぶ			
定期試験			
テキスト			

「生徒指導提要」コンパクト版 文部科学省 ジアース教育新社 2023年

参考書・参考資料等

「よくわかる学校心理学」水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 ミネルヴァ
書房 2013年

学生に対する評価

平常点（リアクションペーパー、振り返りレポート）40%と期末試験60%の総合的評価。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：田村 修一 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校現場の大きな課題であるいじめ、不登校、学業不振、特別支援教育などの解決のためには、教師がカウンセリング理論や技法を学んでおく必要がある。そこで本科目では、教師に必要なカウンセリング理論、教育相談の基本的技法、生徒理解を深める心理アセスメント法の習得を目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、教職志望者のためのスクール・カウンセリング（①理論、②技法、③アセスメント法）について学ぶ。治療的カウンセリングだけではなく、予防・開発的カウンセリングについても学ぶ。そして、生徒理解を深め、効果的な指導・援助ができるように演習を交えながら体験的に学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方、評価の方法）、教育相談とは</p> <p>第2回：学校心理学を基盤とした教育相談の進め方</p> <p>第3回：カウンセリングの理論① 精神分析理論</p> <p>第4回：カウンセリングの理論② 認知行動理論</p> <p>第5回：カウンセリングの理論③ パーソン・センタード（来談者中心）アプローチ</p> <p>第6回：カウンセリングの技法① グループアプローチ：構成的グループ・エンカウンターの活用</p> <p>第7回：カウンセリングの技法② グループアプローチ：グループワーク・トレーニングの活用</p> <p>第8回：カウンセリングの技法③ 傾聴トレーニング</p> <p>第9回：心理教育的アセスメント① 交流分析の理解と活用</p> <p>第10回：心理教育的アセスメント② 知能検査（WISC）の理解と活用</p> <p>第11回：心理教育的アセスメント③ 心理検査（描画法：バウムテスト）の理解と活用</p> <p>第12回：事例研究① いじめの理解と援助</p> <p>第13回：事例研究② 不登校の理解と援助</p> <p>第14回：事例研究③ 発達障害（LD・ADHD・自閉症スペクトラム）の理解と支援</p> <p>第15回：事例研究④ 保護者に対する教育相談</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「スクールカウンセリングのこれから」 石隈利紀・家近早苗 創元社 2021年</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「よくわかる学校心理学」水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 ミネルヴ</p>			

ア書房 2013年

「チーム学校力を高めるカウンセリング」 水野治久・田村修一 ぎょうせい 2022年

学生に対する評価

平常点（リアクションペーパー、振り返りレポート）40%と期末試験60%の総合評価。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習	単位数：2単位	担当教員名：山本美紀 大沢裕 深谷野亜			
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	10～20人				
教員の連携・協力体制	オムニバス形式にて行う。				
授業のテーマ及び到達目標	<p>教職課程の仕上げの授業にあたる。大学4年間で学んだことと教職実習での経験を整理・統合し、教員としての資質の向上を図るものである。授業形態としては講義を減らし討議や発表、現場見学を組み合わせ、実際の教職現場を想定した実践形式での授業を行っていく。</p>				
授業の概要	<p>教師として必要な資質を各自が確認し、実践的な指導力を有する教員としての資質向上に務める。具体的な目標としては以下の4点である。</p> <p>① 教師としての使命感や責任感を持ち、子どもに対する愛情が豊かであるか。</p> <p>② 教師として必要な社会性や対人間関係能力を身につけているか。</p> <p>③ 生徒理解や学級運営について、必要な基礎的な能力を身につけているか。</p> <p>④ 教科内容の基礎的な指導力を身につけているか。</p>				
授業計画	<p>第1回：イントロダクション、これまでの学修の振り返りについて（大沢・深谷・山本）</p> <p>第2回：学級経営についてⅠ（学級経営の目的と内容）（大沢）</p> <p>第3回：学級経営についてⅡ（学級担当としての役割）（大沢）</p> <p>第4回：教育相談の方法（深谷）</p> <p>第5回：教職の意義・教員の役割（大沢）</p> <p>第6回：教師と生徒のコミュニケーション（深谷）</p> <p>第7回：ネットいじめと情報モラル教育（ICTを活用したロールプレイング）（山本）</p> <p>第8回：「総合的な学習の時間」と深い学び（ICTを活用したプレゼンテーション）（大沢）</p> <p>第9回：学校現場の見学Ⅰ（森の里中学校）（見学と中学校教員とのディスカッション）（山本）</p> <p>第10回：学校現場の見学Ⅱ（森の里中学校）（見学の省察・振り返り）（山本）</p> <p>第11回：模擬授業（ICTを活用した授業づくり）（深谷・山本）</p> <p>第12回：模擬授業（ICTを活用した評価と振り返り）（深谷・山本）</p> <p>第13回：GIGAスクール構想下、教師に求められる指導力（ICTを活用した事例研究）（山本）</p> <p>第14回：チーム学校と保護者との連携、地域との連携（大沢）</p> <p>第15回：履修カルテ、ポートフォリオの活用と教育実践演習の振り返り（深谷）</p>				
テキスト	文部科学省最新版『高等学校学習指導要領』				
参考書・参考資料等	必要に応じて授業時間内に紹介する。				
学生に対する評価	到達目標が達成できたかを評価する。授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（10%）、授業内試験（50%）等で総合評価する。				

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。